

## 飛ばないナミテントウによるアブラムシ防除 ～新たな生物農薬の開発～

「飛ばないナミテントウ」※<sup>1</sup>の放飼が、施設栽培イチゴに発生するアブラムシ類の防除に有効であることを明らかにした。放飼適期はアブラムシの初発確認後、株当たりの密度が50頭になるまでの時期である。環境創造型農業の推進に向け、「使える」生物農薬の一つとして、小さなテントウムシの活躍に期待が高まっている。

### 内 容

テントウムシはアブラムシの天敵であるが、ほ場に定着しにくいという欠点があった。「飛ばないナミテントウ」は定着性がよいため、様々な栽培状況において高い効果が期待される。

本県では、近畿中国四国農業研究センター、岡山大学、(株)アグリ総研、大阪府他4県の試験研究機関と連携し、「飛ばないナミテントウ」を利用したアブラムシ防除法の開発に取り組んでおり、施設栽培イチゴにおけるアブラムシの密度抑制効果が高いことを明らかにした。

成虫(2頭/m<sup>2</sup>)1回放飼、幼虫(10頭/m<sup>2</sup>)2回放飼とも、高い防除効果が確認された(図)。また、放飼適期は異なるアブラムシ密度条件下での放飼試験から、アブラムシの初発を確認してから株当たり50頭の密度になるまでの間であることが分かった。また、成虫放飼区においては、放飼後約4週間で次世代幼虫が出現し、持続的な防除効果が確認された。

### 「飛ばないナミテントウ」の特徴



- ・外見上は普通のナミテントウと同じ

- ・成虫、幼虫ともアブラムシをよく食べる



- ・飛翔しないため、ほ場に定着しやすい

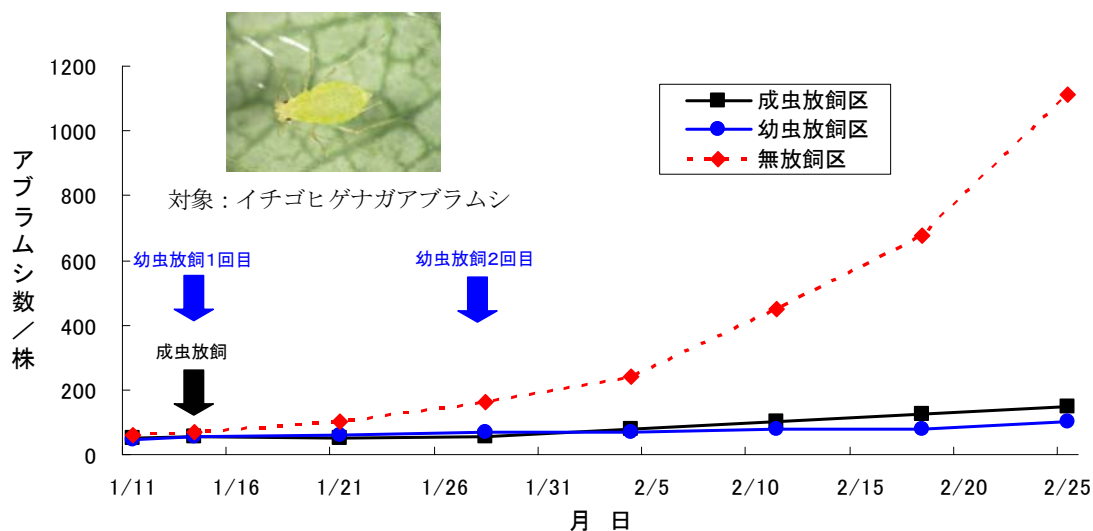
- ・繁殖した次の世代による防除も期待できる

### 今後の方針

現在、農薬登録に向け準備中である。現場での利用性を高めるため、放飼適期の分かりやすい把握手段(甘露※<sup>2</sup>、脱皮殻の確認)を検討し、「飛ばないナミテントウ」の利用による環境創造型農業の推進を図る。

田中 雅也・八瀬 順也(環境・病害虫部)

(問い合わせ先 電話：0790-47-1222)



「飛ばないナミテントウ」を放飼したイチゴ施設におけるアブラムシの密度推移

※<sup>1</sup>：(独)農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センターが飛翔能力の低いナミテントウを系統選抜

※<sup>2</sup>：アブラムシの排泄物